

一般財団法人石川県建築住宅センター

建築物省エネ法判定業務約款

令和7年4月1日

この約款は、「一般財団法人石川県建築住宅センター建築物省エネ法判定業務規程」（以下「規程」という。）第8条第4項の契約に用いる書面である。

建築物エネルギー消費性能確保計画若しくは軽微変更該当証明申請書（以下「計画書等」という。）の提出者（以下「甲」という。）及び一般財団法人石川県建築住宅センター（以下「乙」という。）は、規程第8条第1項により甲の計画書等の提出を乙が引き受けた場合に、乙は引き受けた旨の書面（以下「引受承諾書」という。）を甲に交付し、規程第8条第4項の契約（以下「この契約」という。）として、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律（以下「法」という。）、同法施行令、同法施行規則並びにこれに基づく告示・命令等を遵守し、規程及びこの約款に定められた事項を履行する。

（甲の責務）

第1条 甲は、規程に従い、計画書等ならびに判定に必要な図書を乙に提出しなければならない。

2 甲は、乙が提出された書類のみでは判定業務を行うことが困難であると認めた場合は、乙の判定業務の遂行に必要な範囲内において、引受承諾書に定められた業務の対象建築物（以下「対象建築物」という。）の計画、施工方法その他必要な情報の追加書類を乙の請求に基づき双方合意の上定めた期日までに遅滞なく、かつ正確に乙に提供しなければならない。

3 甲は、規程に基づき算定され引受承諾書に定められた判定手数料を、第4条に規定する日（以下「支払期日」という。）までに支払わなければならない。

4 甲は、乙の判定業務において、対象建築物の計画に関し乙がなした判定基準への是正事項の指摘に対し、双方合意の上定めた期日まで速やかに提出図書の修正又はその他の必要な措置をとらなければならない。

（乙の責務）

第2条 乙は、法律及びこれに基づく命令によるほか規程に従い、公正、中立の立場で厳正かつ適正に、判定業務を行わなければならない。

2 乙は、次条の業務期日までに、この判定業務の適合判定通知書を交付し、又は適合判定通知書を交付できない旨を通知しなければならない。

3 乙は、甲から乙の業務の方法について説明を求められたときは、速やかにこれに応じなければならない。

(業務期日)

第3条 乙の業務期日は、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等に対する引受承諾書の交付後14日以内とする。

2 乙は、甲が第1条及び第6条第1項に定める責務を怠った時、合理的な理由その他不可抗力により、業務期日までに業務を完了することができない場合には、甲に対しその理由を明示の上、業務期日の延期を請求することができる。

3 甲が、乙にその理由を明示し書面でもって業務期日の延期を申し出た場合で、乙がその理由が正当であると認める場合には、乙は業務期日の延期をすることができる。

4 第2項及び第3項の場合において、必要と認められる業務期日の延期その他の必要事項については甲・乙協議して定める。

(判定手数料の支払期日)

第4条 甲の支払期日は、前条第1項に定める業務期日とする。

2 甲と乙は、別途協議により合意した場合には、他の期日を取り決める事ができる。

3 甲が、第1項の支払期日までに支払わない場合には、乙は適合判定通知書を交付しない。この場合において、乙が当該通知書を交付しないことによって甲に生じた損害については、乙はその賠償の責めに任じないものとする。

(判定手数料の支払い方法)

第5条 甲は、規程に基づく手数料を、前条の支払い期日までに、乙の指定する方法で支払うものとする。

2 前項の手続きに要する費用は、甲の負担とする。

(適合判定通知書交付前の変更依頼)

第6条 甲は、適合判定通知書の交付前までに甲の都合により対象建築物の計画を変更する場合は、双方合意の上定めて期日まで速やかに乙に通知するとともに、変更部分の適合性判定関係図書を乙に提出しなければならない。

2 乙が、前項の変更を大規模なものと認めた場合にあっては、甲は、当初の計画書等の提出を取下げ、別件として改めて乙に計画書等を提出しなければならない。

らない。

- 3 前項に規定する提出の取下げがなされた場合は、次条第2項の契約解除があったものとする。

(甲の解除権)

第7条 甲は、次の各号のいずれかに該当するときは、乙に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

(1) 乙が、正当な理由なく、判定業務を第3条第1項に定める業務期日までに完了せず、又その見込みのない場合

(2) 乙が、この契約に違反したことにつき、甲が相当期間を定めて催告してもなお是正されないとき

- 2 前項に規定する場合のほか、甲は、乙の業務が完了するまでの間、いつでも乙に書面をもって提出を取り下げる旨を通知してこの契約を解除することができる。

- 3 第1項の契約解除の場合、甲は、判定手数料が既に支払われているときはこれの返還を乙に請求することができる。また、甲は、その契約解除によって乙に生じた損害について、その賠償の責めに任じないものとする。

- 4 第1項の契約解除の場合、前項に定めるほか、甲は、損害を受けているときは、その賠償を乙に請求することができる。

- 5 第2項の契約解除のうち、乙は、判定手数料が既に支払われているときはこれを甲に返還せず、また、当該手数料がいまだ支払われていないときはこれの支払いを甲に請求することができる。甲は、既に支払った手数料が過大であるときは、その一部の返還を乙に請求することができる。

- 6 第2項の契約解除の場合、前項に定めるほか、乙は、損害を受けているときは、その賠償を甲に請求する事ができる。

(乙の解除権)

第8条 乙は、次の各号のいずれかに該当するときは、甲に書面をもって通知してこの契約を解除することができる。

(1) 甲が、正当な理由なく、第4条第1項に定める支払い期日までに判定手数料を支払わない場合

(2) 甲が、この契約に違反したことにつき、乙が相当期間を定めて催告して

もなお、是正されないとき

(3) 甲の責めに帰すべき事由により業務期日に適合判定通知書を交付することができないとき

- 2 前項の契約解除のうち、乙は、判定手数料が既に支払われているときは、これを甲に返還せず、また当該手数料がいまだ支払われていないときはこれの支払いを甲に請求することができる。また、乙は、その契約解除によって甲に生じた損害について、その賠償の責めに任じないものとする。
- 3 第1項の契約解除の場合、前項に定めるほか、乙は、損害を受けているときは、その賠償を甲に請求することができる。

(乙の免責)

- 第9条 乙は、判定業務を実施することにより、甲の提出に係る対象建築物が建築基準法及び住宅の品質確保の促進等に関する法律並びにこれらに基づく命令及び条例の規定に適合することを保証しない。
- 2 乙は、判定業務を実施することにより、甲の提出に係る対象建築物に瑕疵がないことを保証しない。
 - 3 乙は、甲が提出した判定に係る関係図書に虚偽があることその他に事由により、適切な判定業務を行う。

(所管行政庁への説明)

- 第10条 乙は、関係所管行政庁から説明を求められた場合には当該事業にかかる判定業務の内容、判定根拠その他の情報について、当該所管行政庁に説明することができる。

(秘密保持)

- 第11条 乙は、この契約に定める業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。
- 2 前項の規定は、以下に掲げる各号のいずれかに該当するものには適用しない。
 - (1) 既に公知の情報である場合
 - (2) 甲からの書面で、秘密情報でない旨確認した場合
 - (3) 所管行政庁から求められた場合

(別途協議)

第12条 この契約に定めのない事項及びこの契約の解釈につき疑義を生じた事項については、甲及び乙は信義誠実の原則に則り協議のうえ定めるものとする。

(附則)

この約款は令和7年4月1日より施行する。